

本部町少年の主張大会開催!!

7月7日(木)、七夕の日に本部町文化交流センターにて、『令和4年度本部町少年の主張大会』が開催されました。本部中学校からは3年生の江口まこさんと2年生の仲程天花さんが出場しました。結果、江口まこさんが優秀賞、仲程天花さんが最優秀賞となりました。2人とも独自の視点での主張がなされ、私も新しい考え方が生まれました。素晴らしい内容でしたので、皆さんにも紹介します。

未 来 へ つ な ぐ S D G S

本部中学校 3年 江口まこ

「まこ早くめっちゃ、気持ちいいよ」「冷たくて気持ちいいね」

梅雨明けのビーチは、白い砂浜がとてもまぶしく海が、よりいっそう青くきれいに見えます。緑豊かな山と、真っ青な空に浮かぶ入道雲。脚にまとわりつく小さな魚たち。いつも見慣れたその風景を、私たちはこれからもずっと、目にすることができるのでしょうか。環境問題、貧困・紛争・人権問題など、世界中で起こっている様々な課題を、全世界のみんなで2030年までに解決していくことを目標としたSDGSの取り組みを、目にしたことがあると思います。それは決して人ごとではないと、私が考えるきっかけとなった出来事がありました。

私の住む本部の海は県内屈指の透明度でとても美しいです。いつものように友達と海で遊んだ帰り道、ふと目に留まるものがありました。それはさっきまで私たちが遊んでいた場所の反対側の海岸には、同じ海とは思えないほど大量のゴミが落ちていたのです。何であんな所にゴミがあるのか？あのゴミをどうやって片付けるのかなど、私はあのゴミの山をどうすべきか、いろいろ考えていました。

その時、小学校で学んだウミガメ学習の授業を思い出しました。小学3年から5年生までの3年間、実際にウミガメの飼育から放流までを行う授業で、甲羅洗いや餌やり、成長の観察と記録など私が一番好きな授業でした。飼育の他にも、ウミガメの生態や彼らを取り巻く環境問題についても学習しました。

その時、目にしたウミガメの悲しい姿は、すべて人間が出したごみによる被害でした。ヘアゴムや釣り糸で変形した甲羅、お腹からは大量のプラスチックゴミ。どれも私たちが普段使っている身近な物ばかりです。更に衝撃だったのは、そのゴミは世界中どこの海にもあるということです。今、目の前のゴミの山も、あのウミガメと同じように、沖縄をはじめ世界につながる海の住む生き物たちの命を奪うのかもしれないと思うと、気持ちが苦しくなりました。私は、小学校からずっと本部町で毎年行われている「クリーンキャンペーン」という海岸や地域の清掃活動に家族や友人と参加していますが、毎年集まるゴミの量にはいつも驚かされています。

その活動の中で私が心に留めている言葉があります。「山んちーね、海んはぎーん」という地域の老人の方の教で、「山を汚すと海も死んでしまう」という意味です。環境を守るために一番大切なことは「伝える」ことだと思います。私は本部町をはじめ、この美しい地球を未来の人の為に残し、緑豊かな風景をみせたい。そのために私は自分ができることから始め、一人でも多くの人に伝えることで、この先の未来を守りつないでいく、それが今を生きる私たちにできることだと思います。SDGS14番「海洋への保全」のため、私は4つのことを行動にうつすことを決めています。一つ、ポイ捨てをしない。二つ、ゴミを減らす。三つ、使い捨ては使用しない。四つ、エコバックや水筒を使うなどです。当たり前で小さな行動ですが、それは決してムダではなく大きな活動につながることを、私は知っているからです。

私が放流したウミガメたちは30年の月日を経て、産卵のために自分が生まれたこの地へ戻ってきます。30年後、放流した浜辺で、私は子供を連れてウミガメを迎え、今よりも美しくなった本部の海を見てみたい。それが私の夢です。今を生きる私から、未来を生きる私へとつなぐバトン。私のSDGSはまだ始まったばかりです。

自分らしく生きるために

本部中学校2年 仲程天花

「わー、すごい、天花、頭いいね」

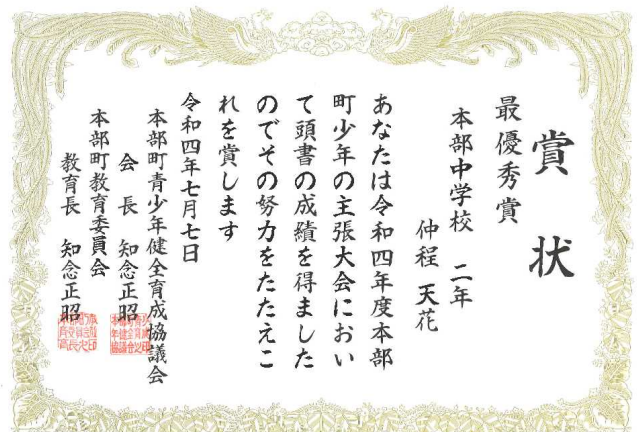
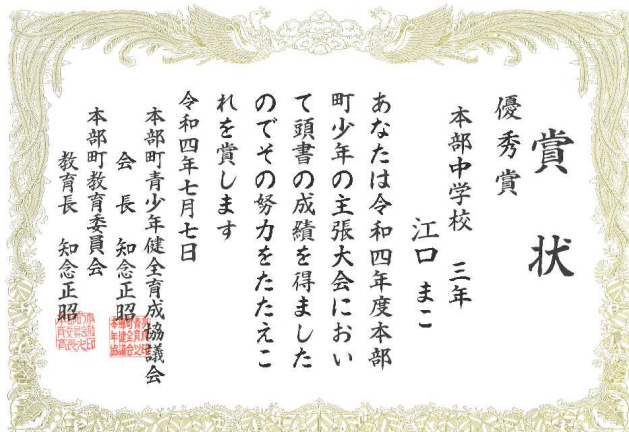
皆さんは誰かに褒められた時、何と答えますか。私はこの時、素直に「ありがとう」と受けとったつもりでいたのに、返ってきたのは「え、自分でも思っているの?」という言葉です。相手の言葉を褒め言葉として素直に喜んだり、努力した分、自分に自信を持てるようになることはいけないことなのでしょうか。他人に褒められた時、私たちはつい「そんなすごいことじゃないよ」「私なんてまだまだだよ」と、他者と比較し必要以上に自分を下げってしまう人は多いのが現状です。それを一般的には「謙虚」や「謙遜」という言葉で表現することがあります。しかし、自己表現が問われるグローバル化の今、私たちは自己否定が身についたままでいいのか、そう考える機会が多く場面にあります。

4月の学級びらきで渡される自己紹介カードには、自分の長所と短所を書く欄が必ずあります。周りを見ると皆、真っ先に自分の短所から書き始め、長所で手が止まり頭を抱えている光景をよく見かけます。最終的に「ねえ、私の長所って何だと思う」と友達に自分の長所を教えてもらい、聞かれた友達は、友達の長所をいくつも挙げています。相手のよさを見つけて褒めることはできるのに、自分のよさには気づけず認めることはできていません。それは私の周りだけのことでなく、特に日本人に多い傾向だと言われています。

日本では謙虚であることが美德であると考えられています。そう考えるようになったのは、米農家が中心だった日本の歴史に関係しているという説があります。米を作る田んぼは広い敷地を一つの家族だけでは維持することが難しいため、身内や隣近所同士協力して生活してきました。だから周りからねたまれることは家族の死活問題につながるのです。そんな生活の知恵から、自分と身内のことは控えめになり、謙虚の文化ができたと言われています。日本では「謙虚であることが美德の一つ」として考えられ、へりくだって素直に相手の意見などを受け入れることがいいとされてきました。しかし、現在の日本はその謙虚の意味よりも、控えめな態度を意図的にとり自分を低く見せる、謙遜の意味で使われることが多いのではないのでしょうか。実際に、日本人はどんなに褒められてもすぐに「いえいえとんでもないです」と褒めた方は、その言葉で相手に受け取ってほしくて言っても、言われたほうは受け取り拒否をしてしまいます。逆に褒められても「でしょ」「そうでしょ」などといえば、周りから自意識過剰と思われてしまいます。

このように私たちは、小さい頃から自分の良いところを自分で認めることになれていないため、自己肯定感が低くなっているのです。私は自分のよさを認め、尊重することで自信につながることで、自分らしく生きることができると思います。夢を実現する第一歩が、自分も他者も褒めることです。逆に謙遜ばかりして自分を否定するとどうなるでしょうか。「私なんかにはできない」「どうせやっても無駄」などと、つかめるチャンスを逃がすことになるかもしれません。自分の良いところも悪い所もしっかりと受けとめ、自分で理解し自信をもって初めて自分らしく生きる方法を見つけられると私は思います。

皆さんは必要以上に自分自身をさげて自分らしく生きることをあきらめていませんか。でも気づいてほしい。あなたは自分が思っている以上に素敵な人だということ。



自分の主張をまとめ、発表するのはとても価値が高いです。人によっては『自分の考えが分からない』という人や、本当は違う意見があるけど、『嫌われるかもしれないと考え、人には伝えない』かもしれません。2人とも大勢の観客の前で堂々と自分の考えを主張できていて素晴らしかったです。